



SHIROSHITA *vs* MACHIBITO

大洲市移住検討プログラム

大洲市について

■大洲市

大洲市は、愛媛県の西部にあり、中央部を清流肱川が流れている自然豊かで風光明媚なまちです。江戸初期まで「大津」と記され、大きな川港を意味していることから、川を利用した水運の拠点であったことを物語っています。その肱川の南側を意味する肱南（こうなん）地区は、江戸時代に伊予大洲藩6万石の城下町として栄えた地域で、江戸期の町割りにおいて形成され、特に肱川の水運の拠点として栄えた明治・大正・昭和初期の景観を残す地域です。

また、肱南地区には、大洲城、臥龍山荘、おおず赤煉瓦館、ポコペン横丁など江戸から昭和にかけてそれぞれの時代を象徴する建物が存在しています。町並みは、明治から大正期に隆盛した木蠟業、製糸業の商家跡、水運や街道の交通要衝地であったことによる商店、職工店、旅館、医院、土蔵などが軒を連ねており、戦火を免れたことから今も当時の雰囲気を感じることができます。



■町家

肱南地区には、約100軒の古民家が存在しており、そのひとつひとつが歴史を刻み、町並みとして残っています。しかし、少子高齢化、後継ぎ不足、現代の暮らしに合わないなどのことから、空き家化が急速に進行しています。また、相続などにより、所有者が遠方に居住するなど、日常の維持管理が困難であり、かつ修繕などの費用負担も大きいことから、壊してしまうのが現状です。そのようなことから、歴史情緒ある景観が徐々に失われつつあります。

一方で、全国的にはその古民家ならではの価値を見出し、クラフトショップや工房、宿などにリノベーションして活用するニーズは年々高まっています。

そのような中、城下のMACHIBITOでは、賑わいのあった状態を再現するとともに、古民家での試験的販売を通して空き家活用を促進することを目的としております。行政や地域の団体などと連携し、各種支援を絡めながら、所有者と事業者のマッチングを図っており、徐々に移住や新規創業が増え始めています。

ー活用事例

2018.12・「花の日々」(ドライフラワー)

2019.5・「はたご屋 霧中」(ゲストハウス・シェアカフェ)

